

第5章 地域づくりのチェックリスト（指標）

〈まちづくりの《ものさし》 —持続可能な地域づくりのための〉

地域づくりのチェックシートは、自分がいる状況を確認し、持続可能な地域づくりの進みぐあいを計る《ものさし》であり、地域づくりの方向性を指し示す羅針盤の役割を持っています。

同時に、持続可能な地域づくりに取り組む主体が活動内容をステップアップしていく時に、行動の流儀、活動の仕方、自己の力量などをチェックする役割もあります。

（1）〈評価〉について

1 可能性を探るための〈評価〉指標

地域づくり組織の組織と活動・事業について評価するときは、一般的な評価の仕方ではなく、地域づくり特有の視点なり指標が必要だと言うことは、第3章(2)4)に示しました。そこでは、地域自治活動に対しての新しい評価の考え方を〈評価〉としました（第3章(2) 4 P24-P25）。

新たな価値を発見し、認識する

〈評価〉は、組織自身や活動・事業を「他者の視点」を通して、その可能性を見える化し、新たな価値を発見し、認識するものと考えます。それは地域力を高める、ひとつの「まちづくり戦略」でもあります。したがって、外部への説明責任もさることながら、内部の、学習に支えられた「ふりかえり」が主たる任務となります。補完性の原則に例えれば、まず当事者・現場が考え、次に組織全体が取り組み、第三者がチェックするという段階を踏むと考えられます。

〈評価〉のポイントは、「ふりかえり」を通して、今は実現していないけれど本当は大切な事を浮かび上がらせることでした。それを「可能性を探るための〈評価〉指標」と言っています。

「可能性」の見える化

地域づくり活動の成果は多様であって、見えないもの、数値化できないものがむしろ多いと言えます。そこをあえて〈評価〉するためには、効果測定から可能性測定にスイッチを切り替えたい、と考えます。どういうことかといえば、これまでの「評価」ではあまりよい判定がされなかった所、「評価」の対象外とされてきた所にも、成長の芽、将来のニーズ等新たに取り組むべきテーマを見出そうと言うことです（可能性の可視化、可能性に気付く）。可視化された「可能性」（もっと別のやり方があった、少しやり方を変えればもっとニーズに沿った活動になった）についてみんなで話し合い、活動・事業の展開（転回）を試みようではありませんか。

「可能性」の見える化、について、シナリオで考えてみましょう。

シナリオ例

ある町で一人暮らしのお年寄りが多いことに気がついた人が、質のよい食事をとれるよう配食サービスを始めました。おいしく安いし、そして配達の際のちょっとした会話が評判となり、希望者が増えていきました。市からの補助金も出たり、配達先が70人を超え、回数も週3回に拡大し、経営も黒字になりました。

ここで、この活動について評価をしてみることにになり、配達先にアンケートをとってみると、アンケート結果からは、満足度が当初より下がっていることがわかりました。どうしたことでしょう。成果があがっていないのだから配食サービスをやめるべきだという人も現れる始末です。そこで、配達車を運転するボランティアさんに聞いてみると、配食が充実してきたから、高齢者はかえって外出の機会が減って、人と顔を合わせることも少なくなってきたということです。回数が増えたため、配達時に高齢者と話しをすることも最近ではあまりないこともわかりました。

そこで、顔を合わせて食事をとる昼食会を開いたところ30人もの参加者があり、みんな食事をそっちのけでおしゃべりに興じていました。会話を飢えていたのですね。

ここからわかることは、最初の満足度の低下という「評価」からだけでは、往々にして本当のニーズや活動の方向性は見えてこないということです。単なる業績評価では見えなかったところにむしろ「可能性」が潜んでいたわけです。評価結果をもたらした背景を、立体的な調査（例えば、現場での聞き取り、受け手と提供者の双方に対する満足度）により浮かび上がらせていくことが必要だということを示しています。可能性の可視化とはこういうことですね。



説明責任としての評価

まだ達成できていないこと、できていないことの中に、将来の可能性があるということがおわかりでしょうか。

〈評価〉することが、具体的な改善や新たな方向（可能性）の発見につながるのであればやりがいもありますし、〈評価〉自体が前向きなものになるのではないのでしょうか。こうした〈評価〉を以下試みます。

ただし、分野によっては説明責任としての評価も大切です。つまり、会計、交付金、指定管理業務等は、お金の使途の妥当性、業務の達成水準を住民と行政に明らかにする必要があります。

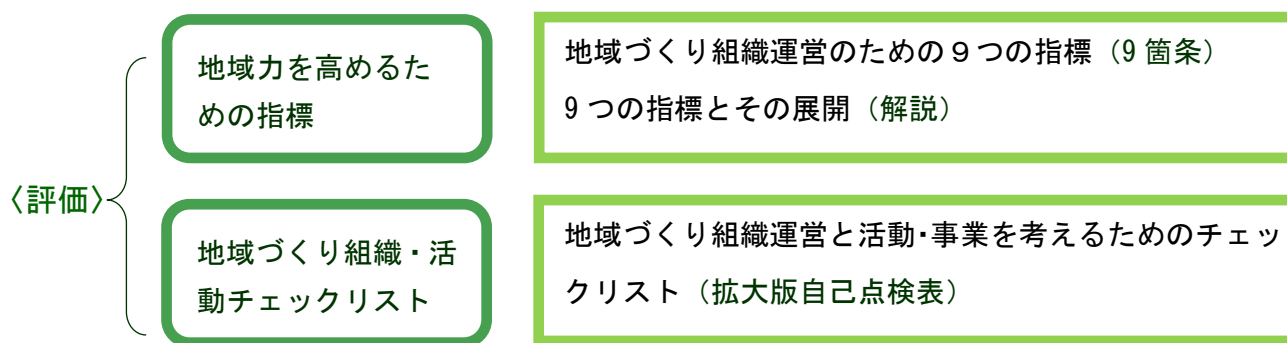
また、地域づくりへの参加・参画という観点から見れば、住民も〈評価〉の対象となります。住民が、自分も地域を良くしていくことにどのような寄与ができるのかを考えると、お客さんの立場から地域経営者の視点への転回が求められます。

最後に確認しておきたいのは、地域づくり組織、活動・事業を〈評価〉するときには、原点である「持続可能な暮らしやすい地域をつくる」というビジョンに沿っているかという、長期的な評価軸が必要だということです。

2

〈評価〉の構成

本書では、〈評価〉を次の2つのステージで構成しています。この全体を〈評価〉と呼んでいます。



(2) 地域力を高めるための指標—地域力を高めるための9箇条

この、『地域力を高めるための9箇条 — 地域づくり組織運営のための9つの指標』は、地域力を高めようとするときに考えておきたいことを絞り込んで、

- 1 地域づくりの基本姿勢
- 2 活動の流儀
- 3 組織運営の作法
- 4 行動の原則

の4つの類型カテゴリー（類型）にまとめたもので、それぞれ1～3の指標で構成されています。指標は、解説や例示によって内容を理解しやすくしています。

地域づくりを進めていくための行動指針

元は、千里ニュータウンでの持続可能なまちづくりを研究する中から、まちづくりの方向を指標として整理したもので、ニュータウンの住民、自治会、NPO、事業者、行政等による議論（ワークショップ）の中から生まれて来たもので、それを名張に合わせアレンジしたものです。

地域づくりには、多様性を最大限に尊重しながら統合を図る必要があります。また、それを推し進める人、人のつながり、実践活動および活動運営ノウハウが欠かせません。このようなことも盛り込みました。

これらは、活動の折々に、リーダーが羅針盤にするとともに、役員や活動への参加者がこれらについて話し合うことによって、組織や活動の壁を乗り越えたり、活動の目標を明確にしたり、行動の作法を共有したりと、みんなで地域づくりを進めていくためのチェックポイント、行動指針となるものです。



この9箇条のうち、とりあえず気になる項目、参考になりそうな項目を選び、みなさんで話し合ってみてはどうでしょうか。自分たちの地域に当てはめればどうか、これまで考えてこなかった視点が提示されたとか、新しい可能性が見えてきたとか……

議論が深まっていけば、地域づくり活動チェックリストも用意されています。それを用いて更に詳しくチェックして、組織や活動の改善につなげていくことができます。

表 地域力を高めるための9箇条 — 地域づくりのための9つの指標

類 型	9 箇 条 (指 標)
1 地域づくりの基本姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ● 夢のある地域づくりをしよう ● まちの「不易」と「流行」を大切にしよう
2 活動の流儀	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な課題から取り組もう ● 横につながろう、交流の場をつくろう ● 地域内でお金が回るしくみを考えよう
3 組織運営の作法	<ul style="list-style-type: none"> ● みんなに活躍の場（出番・役割）を用意しよう ● 誰もが意見を言えるようにしよう ● 組織運営を透明にしよう
4 行動の原則	<ul style="list-style-type: none"> ● まず、自分から一步を踏み出そう

【出典】 地域力を高めるための9つの指標（NPO政策研究所+直田作成）を名張市に合わせ修正

表 地域力を高めるための9箇条とその「解説」

類 型	1 地域づくりの基本姿勢
9 箇条	<p>●夢のあるまちづくりをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一人ひとりの夢を実現する地域をつくろう ▶ みんなでまちの「夢＝ビジョン」を描いてみよう(10年後、20年後、30年後に自分はどんな暮らしをしたいのか、そこからまちの姿を考えてみよう) ▶ 子どもがふるさととして育っていくまちをつくろう
指標の解説	<p>●まちの「不易」と「流行」を大切にしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ まちが育っていく中で、「変えてはいけないもの」(不易)、「変わっていくもの」「変わらなければならないもの」(流行)は何なのかを考えてみよう ▶ まちは生き物だ。住民が変えていく、育てていく。住民も育っていく、そして変わっていく ▶ 「住み続けたい」という気持ちを大事にしよう
2 活動の流儀	
<p>●身近な課題から取り組もう</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域のことを知ろう、学ぼう ✓ 住民の声に耳を傾け、地域の暮らしのニーズを掘り起こそう ✓ できることから始めよう。必要なことは、できるだけ続けよう ✓ 住民ニーズ、地域課題をみんなで共有しよう 	
<p>●横につながろう、交流の場をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域で顔の見える関係をつくろう(あいさつもイベントも良いきっかけ) ✓ いろいろな団体と情報を交換し合い、一緒にできることは手を組もう(協働しよう) ✓ 自分たちで交流の場をつくろう(井戸端会議、ラウンドテーブルなど) ✓ まちの応援団をつくろう(住んでいる人、やって来る人、遠くから想う人、みんな仲間) 	
<p>●地域内でお金が回るしくみを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 福祉や交通など暮らしを支援する仕事をコミュニティビジネスとし、地域内でお金が回る仕組みをつくろう ✓ 地域の特産品、観光資源などを組み合わせて売り出そう ✓ コミュニティビジネスに取り組み、自主財源を強化し、自主的活動を展開しよう 	
3 組織運営の作法	
<p>●みんなに活躍の場(役割)を用意しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 誰もが得意なものを持っているのだから、その人にあった活躍の場(役割)を用意しよう ◇ 役割は自分で選ぼう(自分のやりたいことを見つけよう、作ろう) ◇ 新しい人を信頼し、任せよう(リーダーは期限を決めて交代し、新たな事業を起こそう) ◇ 多様な人を受け入れよう(地域住民はみな仲間。やって来る人を気持ちよく迎えよう) 	
<p>●誰もが意見を言えるようにしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 誰もがががねなく意見を言えるようにしよう。発言しやすい雰囲気づくり、仕組みづくりをしよう(多様な意見が参加を促し、組織や地域を活性化する) ◇ 会合はオープンにしよう、活動がみんなに「見える」ようにしよう ◇ 地域の小さな声を積極的に聞きに行こう、そしてみんなに伝えよう 	
<p>●組織運営を透明にしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 組織運営のルールをみんなでつくろう(地域づくりの作法を共有しよう) ◇ 広報紙等を時々発行して、活動の計画や様子などをみんなに伝えよう ◇ 外部の眼を大切にしよう(意見を聞こう) 	
4 行動の原則	
<p>●まず、自分から一步を踏み出そう</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ できることから始めよう ◇ 一緒にやる仲間をつくろう、まわりに声をかけよう ◇ 風の人(外部の人)に参加してもらったり、行動を見てもらおう(外部の視点・評価) 	

